

事業所名	グループホーム白寿荘 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成19年 1月30日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 生活指導員 資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、Ⅱ-A・Ⅱ-B-2級、介護支援専門員 B:現職 デイサービスセンター管理者 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) 職員は、入居者から人間としての生き方を学ぶ姿勢で、個別ケアを大切に、心の通う笑顔のあるケア、チームワークを重視したグループケアの実現を目指している。 入居者それぞれの経歴・生活経験を大切に、人間としてのプライドを傷つけず、入居者の尊厳を重視した豊かで楽しいホーム生活を目指している。 入居者の家族と親密な関係を保ち、ホームを我が家として家族が安心して何時でも出入りし、家庭的なケアができる共同生活の場を目指している。 併設施設の中核である特別養護老人ホームとの連携を活かし、ミュージックセラピー・合同レクリエーション・リハビリ・行事参加等併設施設との相互受容により、親密な関係が保てるように努力している。 施設は、地域に在るものという基本理念から、ホームを支える地域体制・協働体制の確立を目指し、地域運営推進会議等の機能確保に努めている。 出来ことはしていただくという日々の積み重ねが入居者の自信となり、生活意欲の維持に繋がるように配慮している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) 職員は、入居者と季節のこと等を題材に話しをしたり、好みのビデオや音楽を聞いたり等、お互いに打ち解けられる雰囲気を作り出すように取り組んでいる。 穏やかな職員の態度が入居者に好影響を与え、潤いのある介護にも繋がると考え、法人設立以来在籍している管理者は、職員の話をよく聞き、職員がわだかまり無く、笑顔でケアに取り組めるように心掛けている。 母体法人の関連施設との連携が、入居者のホーム生活を豊かにし、生活の活性化や落ち着きにもなるとして、併設施設との合同事業にも積極的に参加している。 入居者の自主性・個性を大切に、サービスの押し付けはせず、入居者の意思により選択してもらい、心が落ち着くように配慮している。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
東北の中心都市津山市に近く、田園地帯の丘を切り開いた高台に「グループホーム白寿荘」はあり、美しい自然の移り変わりが望める場所に位置している。 母体法人は、地域の輿望を担って設立され、東北で初めて認知症高齢者のグループホームとして6名の定員で発足して以来、認知症ケアの先駆的役割を果たしており、福祉関係の各方面より高い評価を得ている。 特別養護老人ホームを中心に7つの施設が併設されており、合同での催し・社会参加・医療面での緊急対応が、機能的・系統的に協働・連携が取れており、入居者・家族のみならず地域の住民福祉にも好影響をもたらしている。 隣接する鏡野町の総合病院としっかりとした連携があり、24時間連絡可能な体制がある。緊急時には直ちに対応してもらえ、入居者は安心してホーム生活を送れる。 職員は、若い人からベテランの人と多世代の人で構成されており、そのことも入居者に好影響をもたらしている。常に、人生の先輩である入居者から学ぶ姿勢が感じられ、チームワークで笑顔を絶やさぬ介護を行っている。 定員6名でグループホームはスタートしたが、この10月より定員9名となり、部屋の配置もユニークで入居者に配慮したものとなっている。家族・地域の人の訪問が多く、信頼感も大きい。 入居者・家族の負担に配慮して、利用料金を廉価に設定しており大変喜ばれている。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
地域の要望に沿い、早くから6名の定員で家庭的に運営されてきた。この10月より定員9名となり、新たな理念を定め、管理者は職員と心を合わせ、「チームワークによって、個人ケアを大切にすること」を念頭に励んでいる。新しい現在の状況にふさわしいチームワーク、介護体制を緊密に整備し、家族・地域の関係者等との連携をより密にして進められるならば、併設の各施設共々地域の人々が大きな信頼を寄せる地域福祉の中核と成って行かれるものと期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) 入居者の生活歴を重視し、それぞれの特性・能力を活かした支援を行っている。職員は入居者を人生の師と思い、入居者個々のプライドを尊重した配慮を行っている。 トイレ誘導は入居者の尊厳に留意し、小声で優しく呼び掛けている。居室にはノックをして声をかけ、了解を得てから入室するようにしている。個人の相談・話し合いについては居室で面談し、個人のプライバシー保護に配慮している。 個人に関する記録類は事務室で管理者が責任を持って保管し、みだりに外へ出ないように個人情報保護はしっかりと管理されている。入居者が入院した場合居室には鍵を掛け、個人のプライバシーを守るようにしている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) 地域運営推進会議を2ヶ月ごとに開催して地域への啓発を行い、地域関係者の意見を積極的に取り入れ、サービスの向上に努めている。 サービス関係のマニュアルが整備されており、誰が介助しても安全・安心のケアが提供できるように配慮している。 身体が傾き転倒の恐れがある入居者には肘掛け椅子を用意し、食事の時も職員が一番目の届く場所に座ってもらい、安全に配慮している。年6回夜間・昼間を想定し、入居者も参加しての避難訓練を実施している。 些細な事故・トラブル・ヒヤリハット・家族からの相談も記録に残し、その経過や結果を「事故処理書つづり」としてまとめ、事故・トラブルの再発防止に努めている。		